

中学生海外派遣事業の成果と市民海外派遣事業に対する国際化推進施策としての評価

中学生海外派遣事業の成果(教育委員会)

- ・平成5年度から実施している当事業は、平成19年度で14回目となり、派遣生徒が180名、引率職員が60名となった。
- ・当事業には毎年多数の中学生から応募があり、生徒の意欲や知識を高めるきっかけとなっている。
- ・平成19年度はロングビュー市の中学生との交流会や中学校訪問を行い、今まで以上に意義のある訪問となった。
- ・ロングビュー市の同世代の中学生との交流やホームステイなどの体験は、異文化を学ぶだけでなく、日本文化を再認識するよい機会となっている。
- ・各学校における体験談の発表は、他の生徒へ異文化に対する理解の促進などの波及効果がある。
- ・毎年の訪問時に日本語の図書を3冊ずつロングビュー市図書館へ寄贈している。図書館には日本語図書コーナーが設けられており、現地で日本語を学ぶ高校生や市民等の学習教材として活用されている。

市民海外派遣事業に対する国際化推進施策としての評価(市)

- ・現地での交流をとおして、ロングビュー市民に対して和光市を紹介するとともに、和光市とロングビュー市が姉妹都市であることを認識するきっかけとなっている。
- ・参加者は、現地での交流をとおして異文化に対する理解を深めることができたと感じている。
- ・第1回派遣事業参加者の有志により、「和光国際交流会」が設立され、現在は和光市の外国人支援(主に日本語教室)の中心として活躍されており、自主的な市民活動のきっかけとなった。
- ・第6回派遣事業参加者には、ロングビューウィークや市民まつりで、市民の姉妹都市に対する理解を深めるための活動に協力していただいた。
- ・参加者のニーズを考慮した「派遣後のフォローアップ」ができていないため、参加者の経験を他の市民の国際理解促進等に十分に活かせていない。(そのため、「観光旅行」のようになってしまっている)